

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
亥	ガイ 人①								元暦萬葉① 節用
交	コウ かわす まじえる 教2常①								元暦萬葉② 節用
亦	エキ また 人①								元暦萬葉④ 節用
亨	キョウ コト おる 人①								後伏見天皇 節用
享	キョウ うける 常①								藤原朝隆 宝抓取

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
亥	亥	亥	亥				亥					亥 現代中国
交	交	交	交	交			交	交	交	交	交	交 現代中国
亦	亦	亦	亦	亦			亦					亦 現代中国
亨	亨	亨	亨	亨	亨	亨	亨	亨	亨	亨	亨	亨 現代中国
享	享	享	享	享	享	享	享	享	享	享	享	享 現代中国

【交】「一」の下に「久」を書く字体あり。江戸では「一」の下に「火」を書く字体あり。漱石は複数の字体を書く。
【亦】魏霊藏造像記と聖武天皇雜集(下)は「一」を「ク」の形に書くが、これは虚画の左払いを実画として書いたものか。康熙字典の古文の字体は古代の例に見えない。

【亨】【享】「亨」と「享」を古代から別字としている字典と、元は同字で後に使い分けが生じたとする字書がある。『康熙字典』、『角川書道字典』、『新書源』(二玄社)は前者であり、その他多くの字典や漢和辞典は後者。本書では前者の説を採用したが確証はない。後藤朝太郎『教育上より見たる明治の漢字』

には「亨」の許容字として「享」を掲載している。字の上部は古代はやぐら(梯子)なのだが、説文篆文で突然「口」になる。これは「高・高」と同様だ。南北朝以降は梯子に戻り、開成石経でさえ梯子だ。その字体が日本に伝わる。江戸になるとまた「口」に戻る。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
京	キョウ ケイ みやこ	𠄎 𠄏 𠄐	京	京	京	京	京	京	京
京	キョウ みやこ	𠄑		京				京	
亭	テイ あずまや とどまる		亭	亭	亭	亭	亭	亭	亭
			亭	亭					
亮	リョウ		亮	亮	亮	亮	亮	亮	亮
人	ジン ニン ひと	𠄒 𠄓 𠄔	人	人	人	人	人	人	人
介	カイ おおきい すけ たすける はさむ	𠄕 𠄖	介	介	介	介	介	介	介
			介	介			介	介	
仇	キウ あだ かたぎ		仇	仇	仇	仇	仇	仇	仇
			仇	仇			仇	仇	
今	コン キン いま	𠄗 𠄘 𠄙	今	今	今	今	今	今	今
什	ジュウ		什	什	什	什	什	什	什

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
京	京	京	京	京	京		京	京	京	京	京	京
	京			京								京
	京			京								京
	京			京								京
亭	亭	亭	亭	亭	亭		亭	亭				亭
	亭			亭								亭
	亭			亭								亭
亮	亮	亮	亮	亮			亮					亮
人	人	人	人	人			人	人	人	人	人	人
介	介	介	介	介	介		介	介	介	介		介
	介			介								介
仇	仇	仇	仇	仇			仇					仇
	仇			仇								仇
今	今	今	今	今	今		今	今	今	今	今	今
什	什	什	什	什			什					什

【京・京】前漢以降、「口」を書かずに「日」を書く。江戸干禄は「京」を〈通〉とし、九経字様は〈訛〉とする。江戸以降、「口」を書くのは『干禄字書』や『康熙字典』の出版による影響か。康熙字典では「京」は「原」の俗字。
【亭】正字の開成石経も櫓(梯子)。漱石は「口」、「はしご」、

「草書」の3体を書いている。
【亮】甘谷漢簡、楊貴氏墓誌、文部省活字の足が「几」の形。五車韻府、美華書館、築地二号の活字もこの字体。
【介】「分」と似た字体になるため、書き順と字体を変えたのか。江戸では節用の字体が一般的。弘道軒はそれを採用。

【今】将棋駒の「歩」の裏側は「金(キン・コン)」と音が同じ「今(キン・コン)」の草書を宛てたものだという。(増川2000)

【人】²仁³以³仕³仔³仙

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隷書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期				
仁	ジン ニ	𠂔	𠂔	仁	仁	仁	仁	仁	仁				
教6常①		甲骨	包山楚簡	説文篆文	馬王堆	曹全碑	十七帖	集字聖教序	張猛龍碑	孔子廟堂碑	開成石經	王勃詩序	
				𠂔									
				𠂔									
仏	ブツ ほとけ			佛			佛	佛	佛	佛	佛	佛	
教5常①				説文篆文			集字聖教序	牛闕造像記	雁塔聖教序	開成石經	聖武天皇雜集		
佛	人②						𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	
							比丘尼道慧	御注金剛經			聖武天皇雜集		
以	イ おも もちいる	𠂔	𠂔	以	以	以	以	以	以	以	以	以	
教4常①		甲骨	散氏盤	睡虎地秦簡	説文篆文	馬王堆	乙瑛碑	十七帖	集字聖教序	鄭義下碑	孔子廟堂碑	干祿・序	王勃詩序
目	イ	𠂔	𠂔	目	目	目	目	目	目	目	目	目	
④		甲骨	毛公鼎	石鼓文	敦煌漢簡	北海相景君碑			馮季華墓誌				
已	イ すでに のみ はなはだ やむ		巳	巳	巳	巳	巳	巳	巳	巳	巳	巳	
②			包山楚簡	居延漢簡	乙瑛碑	書譜	王獻之	高貞碑	孔子廟堂碑	開成石經	饒魯指歸		
仕	シ つかえる		仕	仕	仕	仕	仕	仕	仕	仕	仕	仕	
教3常①			金文	説文篆文		孔宙碑		饒魯頭碑	温彦博碑	江戶干祿・序	王勃詩序		
						仕						仕	
												仕	
仔	シ	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	
人①		甲骨	金文	金文	説文篆文								
仙	セン セント			仙			仙	仙	仙	仙	仙	仙	
常①				説文篆文			智永千字文	集字聖教序	論經書詩	孟法師碑	江戶五經	聖武天皇雜集	
僊	セン			僊			僊	僊	僊	僊	僊	僊	
②				説文篆文		尹宙碑		陽胤墓誌		江戶五經	聖武天皇雜集		
						僊							

【仏・佛】「仏」は遅くとも南北朝の頃には使われていた。日本では「仏・佛」両方が使われてきた。康熙字典では「仏」は「佛」の古文となっているが、実資料は見えない。

【以】「以」と「目」は異体字。「目」は丸い刃がある鋤のような農機具だという。「以」は、これまで「目」に「人」を加

えた字だとされていたが、睡虎地秦簡や馬王堆の字形を見ると、「人」とされていた部分は鋤の把手に思える。「巳」は鋤の刃を上に向けた字体だろう。それで「やむ」という意味を持ったのだろう。唐代までは「巳」と字体が衝突していた。

【仕】旁は「土」と「土」の2種類がある。隷書は「土」が多

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41～ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
仁	仁	仁	仁	仁			仁	仁		仁	仁	仁
元暦萬葉⑩	節用	人2										現代中国
		𠂔										
		𠂔										
佛	佛	佛	佛	佛	佛	佛	佛	佛		佛	佛	佛
粘葉本朗詠	節用	人5								×		現代中国
仏	仏	仏	仏									佛
粘葉本朗詠	節用	人2古文										現代中国
以	以	以	以	以	以	以	以	以	以	以	以	以
元暦萬葉①	節用	人3										現代中国
		目										目
		己										己
元暦萬葉⑩	節用	己0										現代中国
仕	仕	仕	仕	仕	仕	仕	仕	仕	仕	仕	仕	仕
元暦萬葉①	節用	人3										現代中国
仕	仕			仕								
尼崎萬葉⑩	節用											
仔	仔	仔	仔	仔			仔					仔
	節用	人3										現代中国
仙	仙	仙	仙	仙	仙	仙	仙	仙	仙			仙
元暦萬葉⑩	節用	人3		不折佛画	陸軍							現代中国
		僊	僊		僊							仙
		人11				陸軍						現代中国

数。北魏の楷書は「土」が多数。唐代楷書は「土」が多数。日本では江戸時代まで「土」が多数。正字は「土」。弘道軒は「土」のみ。漱石は「土」と「土」の両方を使用。

【仔】甲骨では「保」と字体が衝突している。漢代以降、中国での使用例が見えない。日本では江戸期に突然出現。

【仙】「仙」の篆文を掲載する字書と掲載しない字書がある。日本では参考の意味で掲載した。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
他	タ ほか		𠂔	他	他	他	他	他	他
代	タイ・ダイ かえる かわる しる よ		𠂔	代	代	代	代	代	代
付	フ つく つける		𠂔	付	付	付	付	付	付
令	レイ しむ		𠂔	令	令	令	令	令	令
伊	イ かれ これ		伊	伊	伊	伊	伊	伊	伊
仮	カ ケ かり		假	假	假	假	假	假	假
假	カ ケ かり ②		假	假	假	假	假	假	假
会	カイ エ あつまる かならず		會	會	會	會	會	會	會
會	エ カイ あつまる たまたま		會	會	會	會	會	會	會
企	キ くわだてる		企	企	企	企	企	企	企

【他】異体字の「佗」は包山楚簡の字体と一致する。
 【令】隸書や初唐の楷書では最終画が縦線。戦国古璽では「令」に「口」を加えて「命」とすることもあったらしい。
 【仮】康熙字典には「佞」と「假」は別字として載っているが、それとは別に日本では「假」の草書からできた「佞」が

あり、字体衝突した。江戸版本では「佞」と「假」の使用頻度は半々ぐらいいである。中国では現在も「佞」と「假」は別の字種。
 【会】常用漢字の字体は草書かできたものと思われる。五経文字に、説文篆文に忠実な字体と石経の字体の両方がある。

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41～ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
他	他	他	他	他	佗		他	他	他	他	他	他
			佗									
代	代	代	代	代			代	代	代	代	代	代
付	付	付	付	付			付	付	付	付	付	付
令	令	令	令	令	令		令	令	令	令	令	令
伊	伊	伊	伊	伊			伊	伊			𠂔	伊
			𠂔									
仮	仮	仮	仮	假	佞	佞	假	假	假	假	假	假
			假									
会	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會
			會									
企	企	企	企	企			企	企			企	企
	企	企	企									

【企】漢から南北朝時代ごろまでは下部を「止」ではなく「山」を書いていたらしい。王羲之も「山」を書いている。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
伎	キギ わざ たくみ		伎	伎	伎	伎	伎 伎 伎	伎	
休	キウウ やすまる やすむ やすめる いこう やめる	休	休	休	休	休	休 休 休 休 休	休	
			休	休			休 休	休	
仰	ギョウ コウ あおく おおせ		仰	仰	仰	仰	仰 仰 仰 仰	仰	
							仰 仰	仰	
件	ケン くだり くだん		件				件 件	件	
伍	ゴ	伍	伍	伍	伍	伍	伍 伍 伍	伍	
仲	チュウ なか	仲	仲	仲	仲	仲	仲 仲 仲 仲	仲	
			仲	仲	仲				
伝	デン つたう つたえる つたわる	伝	伝	伝	伝	伝	伝 伝 伝 伝 伝	伝	
傳		傳	傳	傳	傳	傳	傳	傳	
任	ニン まかす まかせ たえる	任	任	任	任	任	任 任 任 任 任	任	
			任	任			任 任 任	任	

【伎】干禄字書では「技」の〈通〉、つまり「技」の異体字として扱われている。行書、楷書では各無し点が付くことあり。
【休】説文篆文に「广」がついた字体があるが、これに一致する例が見えない。南北朝時代は下に横線やれっかがつく。王羲之も興福寺断碑で横線付きの字体を書いている。唐代の楷

書では横線がつくのは度人経1例だけ。日本の上代は横線つきも書かれる。干禄字書では横線つきの字体を〈俗〉としているが、康熙字典にはない。手書きでは各無し点がつくことが多い。北魏ではギョニシペンを書くことあり。
【仰】傍の「印」が「印」と書かれることがある。手書きでは

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
	伎 伎	伎 伎					伎 伎	伎 伎				伎 伎 干禄(技)通 現代中国
	休 休 休 休 休	休 休 休 休 休					休 休 休 休 休	休 休 休 休 休				休 休 江戸干禄(俗) 現代中国
	休 休											
	仰 仰 仰 仰	仰 仰 仰 仰					仰 仰 仰 仰	仰 仰 仰 仰				仰 仰 現代中国
	件 件 件 件	件 件 件 件					件 件 件 件	件 件 件 件				件 件 現代中国
	伍 伍 伍 伍	伍 伍 伍 伍					伍 伍 伍 伍	伍 伍 伍 伍				伍 伍 現代中国
	仲 仲 仲 仲	仲 仲 仲 仲					仲 仲 仲 仲	仲 仲 仲 仲				仲 仲 現代中国
	傳 傳 傳 傳 傳	傳 傳 傳 傳 傳					傳 傳 傳 傳 傳	傳 傳 傳 傳 傳				傳 傳 現代中国
	任 任 任 任 任	任 任 任 任 任					任 任 任 任 任	任 任 任 任 任				任 任 現代中国

多くの場合「印」の1画目が左から右に書かれる。各無し点がつくことあり。文部省活字の字体は奇異に感じる。
【伝】この字種は、繁体と略体、正字と通用字、楷書と明朝体による字体の違いがよくわかる。現代中国の簡体字は草書の字体。「伝」はなぜこう略すのかわからない。

【任】中国の古代から日本の江戸時代まで正字も含めて傍は「王」ではなく「王」とする例が多い。「王」だとしても1画目は左から右に書くことが多い。殷代は「王」でなく「工」。